2026年11月13日

各　　位

会 社 名　相模ゴム工業株式会社
代表者名　代表取締役社長　大跡賢介
（コード番号　5194　東証スタンダード市場）
問合せ先　専務取締役　吉田邦夫
（TEL．046－221－2311）

2027年３月期 第２四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異及び営業外収益（為替差益）計上に関するお知らせ

2027年３月期第２四半期（中間期）連結会計期間での営業外収益（為替差益）の計上及び2026年５月19日に公表しました2027年３月期第２四半期（中間期）（2026年４月１日～2026年９月30日）の連結業績予想値と実績値に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

１．営業外収益（為替差益）の計上額

2027 年３月期第２四半期（中間期）連結会計期間において、外国為替相場の変動に伴い、為替差益196百万円を営業外収益として計上いたしました。この為替差益の変動は、主に当社及び在外連結子会社の外貨建資産及び負債を期末為替レートで評価したことによるものであります。

２．2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異（2026年４月１日～2026年９月30 日）

	売　上　高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前　回　発　表　予　想（A）	百万円 3,200	百万円 190	百万円 125	百万円 30	円　銭 2.76
今　回　実　績　値（B）	3,248	74	213	110	10.18
増　減　額（B－A）	48	△115	88	80	－
増　減　率（%）	1.5	△60.9	70.9	268.3	－
（ご参考）前期中間実績 （2026年３月期中間）	3,120	161	△14	△126	△11.64

３．差異の理由

営業利益は、プラスチック製品事業が黒字化を達成した一方、ヘルスケア事業における今後の成長を見据えた EC 自社直営店舗の開設などの積極的な先行投資を実施したことにより予想を下回ったものの、為替差益の計上等により、経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益は前回発表予想を大幅に上回りました。

４．今後の見通し

2027 年 3 月期の通期連結業績予想につきましては、為替相場の動向やさまざまな要因を含めて、適正かつ合理的に算定することができ次第、修正を公表いたします。

以　上